

市区町村名	島根県 海士町	担当部署	人づくり特命担当課
		電話番号	08514-2-1221

## 1 取組事例名

町に眠るデータを一元管理し地域課題を見える化：「海士町版 RESAS」の取組

## 2 取組期間

令和3年度～（継続中）

※システム構築準備は令和2年度より着手

## 3 取組概要

人口、教育、産業、介護・福祉、暮らし、関係人口等のテーマごとに町内のデータを集約し、分析グラフを用いて海士町の特徴を深堀し、地域課題の把握に役立てることを可能にする海士町版 RESAS を構築した(市町村レベルでは日本初)。

これにより、データに基づいて効果的かつ戦略的に事業を進めることが可能になり、視覚的に情報を共有・分析しながら住民との対話や施策の検討を行うことに活用している。

## 4 背景・目的

地域経済分析システム（RESAS：リーサス <https://resas.go.jp/#/13/13101>）は、地方創生の様々な取り組みを情報面から支援するために、経済産業省と内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局が提供しているデータシステムで、様々なデータを地図やグラフで可視化可能にすることで、自治体職員や、地域の活性化に関心を持つ様々な関係者が、効果的な施策の立案・実行・検証のためなどに広く利用できるようになっている。

しかしながら、基本的に市町村単位でのデータとなっているため、市町村同士の比較や町全体のデータは把握可能であるが、町の中での地域比較等を行うことはできず、また、町民も町全体以上に自分が暮らす地区への関心が高く、きめ細かい町政を進める上では、もう一段のデータ活用が課題としてあった。

例えば、町内にある14の地区別で人口を比較した際に、最大の地区が約500人を有するのに対し、最小の地区は約20人であり、また、年齢構成も異なっている。こうした地区の特徴や実態も見ながら、移住者の促進や教育、福祉政策を検討する必要がある。

こうした背景の下、海士町版 RESAS は、地域経済の発展と地域活動の活性化のための取組をより効果的、戦略的に行うとともに、官民連携による政策立案や事業検証、改善活動等も推進していくことを目的としている。

## 5 取組の具体的内容



・町が直面している課題や住民のニーズを基に、商工会等とも協議しながら必要度が高いデータ項目を特定し、既存のデータを活用しつつ、人口、教育、産業、医療・介護・福祉、くらし、関係人口、ふるさと納税、財政、事業者動向のデータを集約した。

なお、例えば空き家の実態は統計等も存在せず、確認が難しかったが、水道料金データを活用する等、他のデータと組み合わせたり、代替データを用いることで分析を可能とした。

・その上で、利用者がウェブ上でインタラクティブに分析でき、かつ分かりやすい視覚グラフで表現できるようなインターフェースを構築した。なお、限られた人口の中で個人が特定されるような情報には慎重な取り扱いを検討し、一部のデータはその性質に応じて役場や商工会等の特定の関係者のみアクセスできるような設計とした。

・システムのリリース後は、役場内や学校、町内での説明会を行い、システムの操作方法や分析事例等を説明して、関心を喚起し、利用を呼び掛けた。学生や町民からは、「これまでなんとなくは把握していた課題が見える化され共通認識となったことで、解決策の検討に注力できる」といった声も上がっている

## 6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

海士町版 RESAS の分析画面の設計は、単に町内にある様々なデータを可視化するというデータドリブンのアプローチではなく、政府が提供する RESAS などのデータを活用して大まかな課題を把握したうえで、関係者との検討を繰り返し画面を検討する課題ドリブンのアプローチで取り組んだ。結果として、町政として取り組むべき地域課題を深堀できただけでなく、誰もがわかりやすい形で課題を可視化するシステムの構築につながった。

## 7 取組の効果・費用

・本取り組みの結果、町政において様々な場面でデータに基づく政策立案が行われている。具体的には、地区別の人口構成を分析しながら転入者の居住地の検討をおこなったり、地区別の住宅の状況を分析しながら、どの地区にどのようなタイプの町営住宅を建設していくとよいかといった検討が各課において行われている。

・また介護の分野においては、人手不足に悩む事業者等と連携してデータを収集・分析し、夜勤を中心に介護人材が不足・高齢化に関する課題が可視化されたことを受け、ICTセンサーを活用し、介護対象者の転倒や急変リスクを感知し、介護職員の負担を軽減し、人手不足の軽減や職場環境の魅力化と取り組んでいる。海士町版RESASの分析をきっかけに、このようなDXの取組も始まっている。

今後は、他の分野でも人手不足や生産性の向上は共通的な課題であり、こうしたデータの活用により、業務改善を図り、事業の実効性や継続性を高めていくことが期待される。

## 8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

・データの可視化にあたり、様々な部署からデータを収集したが、課毎、担当者毎にデータの収集方法、集計方法が異なるため、可視化データのクレンジング作業には非常に労力を要した。

・効率的なデータ収集を推進すべく、現在では、データ収集フォーマットや収集ルールの作成に取り組んでいる。

## 9 今後の予定・構想

・今後はシステムの利活用促進に注力していく。具体的には、学校教育における地域課題学習や町民向けのデータ活用ワークショップの開催を予定している。町内の様々な事業者と連携しながらデータ分析をしっかりと学べるコンテンツだけではなく、初学者が親しみやすいようすごろくのようなゲーム要素も取り入れたコンテンツの作成にも取り組んでいく。これにより町民だれもが海士町版RESASを活用してまちの現状を把握、効果的な施策の検討ができるようになることを目指す。

また、可視化された課題をICTツール導入して解決に向けて取り組んでいる介護DXのような取り組みをほかの分野でも推進していくことを検討している。

## 10 他団体へのアドバイス

・データシステムの構築自体は目的ではないので、地域にあるデータを可視化するのではなく、民間や住民の方と設計の段階から協議して、どのような分析を行いたいのか、何を可視化すべきなのか十分検討して構築することが、利活用につながる。

1 1 取組について記載したホームページ

<https://amaresas.town.ama.shimane.jp/>

<http://www.town.ama.shimane.jp/koho-ama/2021/08/resas.html>